

# 会 議 記 録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 21 年 8 月 19 日 (水曜日)	開催時刻	13 時 30 分から 14 時 25 分
会議名	丸子地域協議会 (平成 21 年度第 5 回)		
出席委員	生田委員、大森委員、片桐委員、木下委員、倉沢委員、甲田委員、笹井委員、笹沢委員、滝沢(俊)委員、滝沢(浩)委員、武井委員、竹花委員、土屋委員、成澤(啓)委員、成澤(み)委員、宮坂委員、村松委員 【欠席】浅倉委員、本間委員、柳原委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、佐藤センター次長兼地域振興課長、大平地域政策担当係長、中村地域政策担当		

## 会議次第

- 1 開会 (佐藤センター次長)
- 2 会長あいさつ (片桐会長)

先月、わがまち魅力アップ応援事業の追加申請のプレゼンテーション審査に参加してきました。15という多くの事業の応募があったが審査が難航したところでございます。特にイベント的な事業が大変多く、不採択が 4 事業、条件付採択が 7 を含め採択が 11 でございます。丸子地域では条件付採択というのは採用しませんでした。全市対象の追加申請では 7 事業も条件付採択されまして、審査のあり方についても課題があるのではないかと思います。このことについては後ほど皆さんから質問がありましたら説明してまいりたいと思います。本日、報告事項の後、分散会に分かれて、皆さんに協議して頂くわけでございますけれども、前回は活発な意見が出されているようでございます。もう 1 回、2 回やりまして、まとめていただければと思います。

## 3 報告事項

### (1) 丸子勤労者福祉センター及び丸子情報館の廃止について (地域振興課)

丸子勤労者福祉センターと丸子情報館は、現在のファーストビルの活用についてご議論いただく中で方向性を見出してきた。ファーストビルをリニューアルして、街の中心市街地の活性化の拠点にしていこうという中で、情報館については、市民の目的を達成し利用者が激減しているということで廃止の方向を選択している。平成 11 年に高度情報社会に対応する為の教育施設の一貫として情報館を設置した。設置当初は年 3000 人近い方の利用があったが、現在 500 人から 700 人くらいの利用者で推移している。この背景には、家庭へのパソコンの普及、学校でのパソコン教育の普及により情報館の任務は終わったのではないかと。なお一部情報端末については、ファーストビルの中に設置して、情報コーナーとして活用できたらと検討している。また勤労福祉センターにつきましては、ふれあいステーションのある場所に昔、勤労者福祉センターがあり商工会の事務所があったわけだが、ふれあいステーションを建設するにあたり、ファーストビルの 3 階にある大会議室、小会

議室を勤労者福祉センターとして位置づけた。昨年の議論の中でも報告した通り、勤労者団体としての活用はほとんどなく、子育て支援や老人クラブ、趣味の会の皆さんの活用が多くなっている。そういった皆さんの活用しやすい方向で、リニューアルしていったらどうかという議論の中で、今回、勤労者福祉センターについても廃止をして施設替えしていきたい。8月31日から始まる9月議会へ、廃止条例を上程させていただく予定。

主な質疑の内容

・なし。

#### 4. 調査研究事項

##### (1) 全体会議

##### ・丸子地域予算活用事業について（地域振興課）

・平成21年度から平成27年度までの事業計画期間について説明。持寄分基金は、第一次上田市総合計画の終了年度である平成27年度までに消化していこうという方向で計画をはかっていきたいというもので、平成22年度以降、具体的なものは計上してないが、今までに見えてきたものを掲載している。依田川リバーフロント市民協働事業は、平成21年度に実行委員会の委員報酬等を地域予算として盛り込み、準備を進めている。実行委員会の研究活動あるいは啓発活動をしていく中で、課題になっている合流点について、平成25年ごろから地域予算を盛った具体的な事業付けをしていったらどうか。文化財保護・修繕 依水館修繕についても今年度事業を行っているが、引き続き修繕の手を加え、市民の皆さんに使っていただきやすい文化財として位置づけてまいりたい。旧カネボウ食堂棟のリニューアル・産学官連携施設とするための改修ということで、22年度から改修工事という名目を挙げている。現在、カネボウの食堂棟において、旧丸子カネボウを守っていた昭和30年製のオート三輪消防車の修復作業をしている。その修復作業に加わっている信大の先生から、引続き学校との連携でこの施設を使っていくことができないか、産学官連携の施設として位置付けを考えてもらえないか提案をいただいている。その提案に答えていくためにも、現在トイレ等の設備もないので、一定の改修をはかりながら、食堂棟を産学官連携の機軸につながるような施設としていったらどうか。霊泉寺 徳寿荘跡地活用事業は、前々回視察いただいた跡地について、市で保有している霊泉寺温泉の源泉、市有地を有効に活用して霊泉寺の活性化、丸子温泉郷の活性化につながる事業ができないか、構想を練りながら、25年ごろから具体的な事業づけをしていけないか。この中には、霊泉寺にある温泉館、これは霊泉寺部落にある集会施設も兼ねていて、1階が共同浴場、2階が集会施設の温泉併用施設で老朽も進んできていて、建て替えも含め検討いただけないか。大塩館の跡地も見えていただいたが、大塩館の跡地を当時町が買い取り、現在廃屋だったものは撤去、更地化され、体育館は体育館としての活用をしているが、それを整備して地域資源、観光資源として活用できないか、平成25年ごろから事業できないか方向性をご議論いただきたい。陽寿荘の跡地についても、大塩にある敬老園の上の跡地が更地化されているが、あのままにしておいても自然と山に戻っていくが、せっかくの市有地なので、大塩地区では前から山

野草・木の育成をしていて山野草園ができないかという取組みをしている団体もあるが、そういう連携も視野に入れながら、平成 25 年ごろから事業着手できないか議論いただきたい。丸子地域自治センター屋外トイレ建替とあるが、800 万円の予算で駐車場東にあるコンクリート製のトイレ、大便器、小便器と一つずつあり、階段を上らないと使えない、外から見えてしまうトイレで評判が悪いが、利用者も多くもっと障害者に対応できるようなバリアフリーなトイレにしていきたい。併せてオストメイト等の患者も多くいるので、ユニバーサルなトイレとして改修して使えるようにしていきたい。今年度の 9 月補正予算でお願いしていきたい。それを加えて今年度 6399 万 9 千円の予算の基金の取り崩しとなっている。平成 21 年度以降に使える持寄分基金残高として、4 億 2 千 300 万円が残る。それを平成 22 年から 27 年の間に事業付けをはかって行きたい。ほかにもまだこういう事業があるのではというものは大いに委員の皆さんからも上げていただきたいし、今あがっている事業についても、もっとこうあるべきじゃないかというものがあれば、そういう形で盛り込みながら事業付けをしていきたい。とにかく地域予算をどのように使っていくかという活用はこの地域協議会の中で議論いただくことになっているので、積極的にいろいろなご提案をいただきたい。

- ・街路灯についての提案 持寄分基金が丸子地域全体に関わる基金なので、丸子地域の皆さん全体に恩恵が及ぶような事業付けはないかと検討しているが、その一つとして提案。地域予算の活用についての議論で、何回か街路灯の補助について話題にのぼっている。合併に伴い、全市統一で 2 分 1 の負担に変わってきている。真田・武石地域は全額自治会が負担していたものを 2 分の 1 補助が入るのでそちらは良くなったが、丸子は、旧丸子町では全額電気代を行政で負担していたが、自治会の負担が 2 分の 1 となった。資料は、7 月 9 日に日本経済新聞に掲載された記事で、蛍光灯をそのままの施設を使って LED の蛍光管に交換することが可能になってきているというもの。今ある蛍光灯では丸子地域で年間 750 万円の電気代がかかっているが、LED の蛍光管に切り替えると、約半分以下の電気代になるという話し。電気代の経費節減になるし、蛍光管の寿命が大変長いものになってくる。LED が従来の電気と違って紫外線・赤外線を出さないために害虫が寄ってこない。蛍光灯の周りを見ると、よく蜘蛛の巣がはって虫の死骸がよくついているが、LED だと比較的少なくなってくるという報告もでている。蛍光管を取り替えるには、例えば 20ワットの街路灯を 1 本変えると、取り替え手数料を含めて約 1 万円くらいかかるが、丸子全体で約 2300 本の街路灯で 2300 万円ほどかければ、LED の効果で地域住民みんなが恩恵に浴せる。
- ・地域のコミュニティを高める活動について もう一枚新聞の切抜きは、このごろ新聞に掲載された地域のお祭りを集めたもの。中丸子地区が伊勢の海部屋の皆さんと協力して、子どもの相撲大会を開いたという記事。茂沢自治会では 6 年目でようやく大勢の人が集まるイベントになった記事。腰越自治会では花火大会が中止になったのをきっかけに、伊勢の海部屋の力士と交流をもったという記事。地域のコミュニティを高める活動まで視野を広げる必要があるのではないかと考えていて、そういったものを含めながら分散会で地域予算の使い方をご議論いただきたい。

・簡単にまとめると、旧丸子町の時代から課題としていた事項、合併後課題となっている事項に対処する、あるいは丸子地域多くの皆さんに恩恵におよぶものに対処する、地域のコミュニティをより高めるために使っていくという、いろいろな視点がある。今後の分散会の中でも、地域予算の活用についてご議論いただきたい。

資料 1: 丸子地域予算活用事業、LED照明に関する新聞切抜き、地域のイベント新聞切抜き

#### 主な質疑の内容

(委員) 依田川リバーフロント市民協働事業について、今年度立上げのための予算が入っているが、平成 22年度から 24年度までは空白になっている。引き続き活動を継続していくような方向での計画が必要なのではないか。

(事務局) 工事を想定した事業付け年度を入れてある。実行委員会を作り、ソフト事業をいくつか年度ごとに繰り返す中で住民の皆さんの意見集約等を図ればということで、それについての予算は入れてない。実際にハード事業を付けるとすればいつ頃かという見通しの中で入れた。この間はまったく飛びぬくという考えはもってない。

(委員) 工事までの期間がトータル 4年見込んでいるが、4年間かけないとそこまで持って行けないのか。もう少し前倒しをしていくような考え方が必要ではないか。もう 1点は、旧カネボウ跡地食堂棟のリニューアル・産学官連携施設について、ここの場でも食堂棟の跡地利用は議題になっていたので、その検討の中に協議会自身も入り、一緒にやるような活動方式というものを、できたら考えていったほうがよろしい。

(事務局) 説明不足のところもあるが、工事としてハード事業で 25年度から入れ込んであるというのは、少なくとも平成 27年に終わらせるには平成 25年度にはハード事業を着工しなければいけないという考えで、その前にまとめれば、その段階でやっていきたいという考え。カネボウ食堂棟については大学から具体的な提案が出ている段階ではない。先生が文部科学省と構想の刷り合わせ中だとお聞きしているので、そういうものを受けながら、地域の商工団体、工業団体の皆さんの利便性も考えながら対処する必要があると思っている。その問題については協議会の中で一緒に検討していく専門委員会を立ち上げてとしていたが、こういう状況がでてきているので、もうちょっと方向が見えるまで、専門委員会の立上げがちょっと送られているというのが現実。

(片桐会長) 依田川リバーフロントは、民間企業、家庭雑排水のところはクリアできるか。

(事務局) 不燃物最終処分場は閉鎖、家庭雑排水汚泥処理施設も廃止の方向は決まっている。まだ家庭雑排水汚泥処理が必要な家庭も残っている課題はクリアしていく必要がある。バキュームカーは下水道の普及に伴って減るが、ゼロになるものではないと聞いている。代替地又は場所の配置換え等をしながらのハード事業ということになる。民間企業は個人の営業の中でやっているなので具体的に打診はしてない。

(委員) 大塩、霊泉寺関係は来年度なりから研究をしていかないと、市民の目に見えないところで出来きましたというのは避けるべき。カネボウの問題も、オート三輪消防自動車と大学との関係もあるが、もう少し開かれたものにするためには、早急に専門委員会を開き、

そこへ産学官というものが入ってくるというのが筋じゃないかと思う。  
(片桐会長) 地域予算については、分散会の中で検討をしていただきたい。  
(委員) 平成 27年度までに 4億9千万円を全部使い切るということが確認。  
(事務局) 決めてない話したが、事業をやるときに地域予算があるから地域予算でやれという話しは本末転倒で、第一次総合計画の地域まちづくり方針の中で話し合っ、地域で使いたい事業に地域予算を使っていく必要があるのではないか。平成 28年度から第二次上田市総合計画になったときには、地域で決めて地域で使うお金という概念はないのではないか。

・ 前回分散会で話し合った内容について報告

< 第 1分散会 > (分散会会長)

- ・ 上田市行財政改革推進委員会「提言書」について説明。平成 20年 12月 19日に上田市行財政改革推進委員会が市長に提言書提出。内容は、地域内分権の推進に向けた地域自治センターの機能のあり方、総合支所機能の強化、地域協議会のあり方、地域予算が含まれている提言書。提出したきりフィードバックがないので、この地域協議会へ出していただいた。取り扱うテーマの明確化 まちづくり方針 7項目は、あまりにも問題が大きすぎてなかなか理解できない。委員構成の多様化 各団体や個人依頼、公募と 3つの形だが、それぞれ地域協議会ばらばらで基準がない。充て職が多すぎるのが実情で、見直すべきではないか。結果が反映されるしくみづくり 自治センター条例第 7条に「市長は必要があると認めるときは…」とある。どんなに地域協議会で良い意見を出したとしても、市長が必要が無いと認めればなにもしなくても良いというのが現状。なんとかしないと、地域協議会の皆さんの取り組む意欲が欠けてくるのではないか。新たなまちづくり組織の検討 地域協議会の抜本的な見直しも含めて自治基本条例の制定につながっていく問題。自治基本条例制定の検討委員会がまちづくり協働課主体でやっているが、その報告が地域協議会にも何もない。進捗状況がどうなっているかわからない。背景 意見書を出した場合、条例によって議会全員協議会に意見書を提出するぐらいのしぼりがほしい。自治センター条例の第 7条を変えていかないと、どんなに良い意見を出してもすぐには反映されないというのが現実だと思う。検討する必要があるのではないか。地域予算 先ほど事務局から防犯灯の蛍光管の取替えと言う良い提案が出された。
- ・ 8月 17日期限で意見を取りまとめた。この後分散会で検討していく。

< 第 2分散会 > (前回進行役)

- ・ 前回 3名欠席のため、会長は選出せずリーダー代理で進行した。
- ・ フリートークで、意見を率直にざっくばらんに出していただいた。テーマは持寄り基金、地域協議会の役割強化策についての 2つのテーマ。
- ・ 持ち寄り基金について もったいないという意見もあるが、全体の活性化になるなら、どう活かしていくか前提に、それもあまり長いスパンでなく、有効活用できる順序を決め

て使っていくように地域協議会としては提案していこうというのが皆さんの意見。LEDの話も出たが、街路灯については地域住民からも声が出ている。消耗品や電気代は上田市全体の水準があるので、丸子地域だけ全額持つというのはいけないにしても、ハード面を持寄分基金を使ってというのは、おそらく多くの方が賛同して下さるのではないかと。

- ・ 地域協議会について 強化策という具体的なものは出なかったが、地域協議会の委員として皆さん、ちょっとモヤモヤした感覚があるというのは否めない。どこへどう自分の意見を持っていったらいいのか、吸い上げる母体がない報告するところもないというすっきりしないというものがある。が、もともと地域協議会は決定機関ではなく意見が出せるだけなので、割り切って意見を出していこうという意見が出された。地域自治センターの体制をバックアップするためにもあるので意見を活発に出していこう、バックなしに言える場所があることに大きな意味があるのではないかとという意見も出された。

(事務局) 分散会についてお願い。分散会は同じテーマをそれぞれで話し合っただき、それぞれが発言しやすい環境を作るために分散会を設置している。記録をとって次回全体会へ報告し、それに基づいてまた分散会を開催し意見交換を繰り返していくことを提案している。議論が深まるようにしていただきたい。平成 22年度地域予算は、予算要求の時期があるので、10月から 11月までには地域協議会として意見がまとめていただきたい。例えば、街路灯のLEDを丸子地域全域にやるという話しになったときに、一気にやるのか、それとも年次計画でやっていくのか。できるだけ具体的に年度付けをしていただきたい。先ほど予算資料で指摘されたように、平成 25年度まで待つ必要はなく準備ができれば着手していきたい。できれば年度ごとに使う持寄分基金の配分、地域的に偏っている心配はないかということについても検証いただきながら検討いただきたい。とりあえず 22年度はどう使うかということについては、議論を早めていただきたい。

(片桐会長) 分散会に分かれて、引き続きご議論いただきまとめていただきたい。

## (2) 分散会

- ・ 地域協議会終了後に開催。

## 5. その他

- ・ わがまち魅力アップ応援事業の追加募集採択結果について

(片桐会長) この審査の席上、それぞれの事業の現地視察と採択された事業の報告会を年に 1回やっているが、その報告があり高い評価をいただいた。他地域ではやってない。追加募集の審査で大変苦労したのは条件付採択。丸子地域では、条件付採択すれば全部採択になるという観点から採用しなかったが、上田は以前から条件付採択が非常に多く、今回も 7つ条件付採択した。せっかく応募していただいたので何とか通そうという委員皆さんの配慮もあったようだ。特に非常に継続性に欠けたという印象をうけた。上田地域では、申請すれば何でも補助金がもらえるという傾向があり、この点全体の応募の中でも考えていか

ないといけない。最初の応募のところ、例えばイベント的なものは駄目だとか、丸子にもあったがアルコール付きのものは駄目だとか、そういう規定をしっかりともう一回、住民の皆さんに知らせる必要があるのではないかと。また、それぞれの取組み状況について先々月視察やったが、追加募集の事業では、視察したくても視察をする場所がない。丸子地域は、連帯感をもって大勢が参加して公園作りをするという事業が多く、視察できる場所を取り組んでいる。丸子地域のほうが早くから取り組んでいたせいも、魅力アップ応援事業の趣旨をよく理解して申請しているという印象。

(事務局) 追加募集採択事業一覧の資料のほかに、年度当初に採択した事業一覧表についても配付した。来年審査の参考にさせていただきたい。

資料 3平成 21年度わがまち魅力アップ応援事業追加申請採択事業一覧、平成 21年度事業一覧表

・その他

・ サマーウォーズについて (事務局)

上田市を舞台としたアニメーションが製作され上映されている。「こいこいマップ」は、わがまち魅力アップ応援事業でグラウンドで映画上映したいと申請した感動 プロジェクトから相談を受けて、この取り組みはどうかと話した。感動 プロジェクトの皆さんが、映画を盛り上げるイベント等を盛んに組み立て、マップづくりまでして、今回の上田での上映活動に大きく関わってきた。映画も大変おもしろい映画なので、9月末日までやっているのに関心のある方は見ていただきたい。

・ 木曾義仲拳兵武者行列について (事務局)

103行われる武者行列の参加者を募集している。老若男女問わないので、委員の皆さんからもご協力をいただきたい。

・ 依田川リバーフロント市民協働事業「川の絵」「川の写真」募集 (事務局)

今まで実行委員会準備会を3回開催し、事業計画案、実行委員会立上げについて検討してきた。11月までに実行委員会立上げと市民会議の開催を目指している。その一環として、川の絵、写真を募集したい。委員が実施している川の教室へ参加したり、爆水ランに参加された皆さんにもチラシを配って応募を呼びかけた。また丸子地域の各小中学校へもチラシを配布し呼びかけていきたい。委員の皆さんにも趣旨を理解していただきご協力をお願いしたい。

・ 定額給付金の申請期限について (事務局)

上田市全体で約6万6千件の対象のうち、7月末で約6万2千件(約93%)ほど申請。未申請が約4千件で、9月16日(水)までの申請期限で呼びかけ。声がけをお願いしたい。

・ 今後の日程について

・ 次回地域協議会の日程

9月17日(木曜日)

## 6 . 閉会

- ・引き続き分散会を開催。

・地域協議会終了後、第 1 分散会（第 3 会議室）、2 分散会（第 4 会議室）に分かれて引き続き検討。午後 3 時 30 分を目安に流れ解散。